

栽培管理は最後まで気を抜かないで

リンゴは収穫が終わるまで気を引き締め、台風等に備えて防風ネットの設置や補修、枝つり、樹体を支柱へしっかり結束するなど、再度点検して事前に万全な対策をしておいてください。

リンゴの収穫は「さんさ」が終わると、「きおう」、「つがる」が最盛期を迎えます。この時期はちょうど岩手の主力品種である「ジョナゴールド」などの着色管理の開始時期と重なります。また、10月になると「ふじ」の着色管理と中生種の収穫が重なるなど多忙を極めます。着色管理作業の遅れは、人手を掛けた割には、着色が進まず著しく商品価値を損ない、無駄働きになりかねません。

さらに、着色するまで待つことになると、収穫適期を逃すため、軟化が進み日持ちの悪いリンゴを出荷することになります。したがって、労働力の不足しがちな大規模リンゴ経営では、効率よく作業を進めて、適期作業を励行しましょう。果実の着色には、日光と適度な温度と果実内糖度の上昇が不可欠です。とくに果実に直射日光を当てることで着色を促進させる決め手となります。

しかし、一度に過度な葉摘みは慎み、着色度合い見て2回に分けて行うことが大切です。葉摘みの開始は、中生種は収穫20～30日前、晩生種は30～40日前が目安となります。



【 きおう 】

写真：岩手県農業研究センター 果樹研究室より